

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

さっぽろ 市議団ニュース

<第3回定例会>

2020年10月23日

No. 231

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221 / fax 218-5124

有害残土—住民合意は得られていない、市は断念すべき

村上ひとし議員が質問

日本共産党の村上ひとし議員は14日、決算特別委員会で新幹線札幌トンネルからでる対策土の受入候補地の問題について質問しました。対策土の受入をめぐるのは、2日の総合交通調査特別委員会で、手稲山口地区の住民説明会の対象にならなかった星置地域の住民が、説明会の開催などを求めて陳情を提出し、自民、民主、公明の反対で否決された経過があります。

村上議員は、改めて「山口地区で開催した説明会の対象範囲はどう決めたのか」とたずねました。生野新幹線推進室長は、「山口処理場が位置する山口西町内会と東町内会の区域の方の理解が必要と判断した」「ごみ処理場として利用する際にも両町内会の方々に理解していただいた経緯もあり、これを踏まえ」と答弁。村上議員は、「20数年前のごみ処理場建設と今回の基準値を超える要対策土の受入を同列に扱うわけにはいかない」「不安を抱く住民に広く説明する必要がある」と指摘。そして、「2日の陳情審査の際、『要請があれば個別に説明する』とのべたが、なぜ、説明会ではだめなのか」とたずねると、生野室長は、「すべての地域で行うことは困難…今回は調査のための説明会」「個別に、ある程度の人数であれば伺っている」などと答弁に窮しました。

「市民の理解なくしてすすめることはできない」市長答弁に矛盾

村上議員は、秋元市長が「地域住民をはじめ、市民のみなさまのご理解なくしてはすすめることはできない」「地域住民の声を十分に伺う」とのべてきたが、「市長答弁とも矛盾するのではないかとたずねると、生野室長は、「北海道新幹線は市民、道民の大きな期待を集めて行う事業」「対策土の処理については住民全体の理解が必要」などの外的な答弁に終始。村上議員は、「新幹線に期待する人もいるかもしれないが、不安に思っている市民もいる」「説明すべき対象範囲を狭め、市民の知る権利が保障されないまま事前調査に踏み切る。これが市民の声を聞き、理解を深めることなのか」「しかも、国会質疑で赤羽国交大臣は、『地元住民の理解が得られないなかでの事前調査の実施は困難』と明確にのべている。こうしたやり方を強行するというのではないかと迫りました。

村上議員は、「今回の山口地区の説明会は極めて機械的で住民への配慮にかける」「不安に感じている市民に対し、理解、協力してもらおうという姿勢とはいいたい」とたずねると、吉岡副市長は、「(対象から外れた)地区の方についても、同様の資料がホームページに掲載され、要請があればお伺いしたい…」「(不安を持つ)そうした方々の思いには答えているのではないかとたずねると認めようとしませんでした。

機構は「住民理解が得られず、自治体が受入を断念する場合はやむを得ない」といっている

次に、村上議員は、厚別山本地区の問題についてのべ、同地区が「産業廃棄物の埋め立て処分場となり、市営地下鉄の残土も受け入れ、数多くのトラックの騒音と振動に悩まされてきた」「山本地区は、長きにわたり市の要請に応じてきた地域だと思うが、どう認識しているのか」「山本地区の住民には、これまでも十分に市に協力してきた、要対策土の受入などこれ以上の負担は勘弁してほしいという思いがある。山本地区を要対策土の受入候補地とすることは断念すべきだ」とたずねました。

生野室長は、「市に多大なご協力をいただいている」としつつ、「地盤条件など詳細な検討を行う必要がある」と、あくまで推進する姿勢を示しました。村上議員は、「鉄道・運輸機構によると、住民説明会のすすめ方などは自治体と相談・調整のうえで決定」しており、「機構は、住民の理解が得られず自治体が要対策土の受入候補地を断念する場合は、やむを得ないという見解を示している。ボールは市にある」と強調。そして、「町内会の会長は、町内会全員が候補地に反対しているといっている。これ以上、明確な意思表示はない」「この住民の声に答えるべきだが、いつまでに判断するのか」とたずねると、生野室長は、「トンネル掘削は、札幌工区の立坑を除いては始まっていない状況」「機構から非常に厳しくなりつつあると聞いている。早急に受入地を決めたい」とのべるだけでした。